

「ふつう」ってなんだろう

大野市陽明中学校 三年 北脇 夢

「それってふつうじゃないよね。」私が何気なく友達に言った言葉が、相手をどれほど傷つけたのか。その時の私は気づいていませんでした。

ある日、休み時間に友達の持ち物を見て、「そんなの使ってるの？ふつうはこっちでしょ」と冗談半分で言ってしまった。私はただの軽い会話のつもりでしたが、その子の表情が少し曇ったのを覚えています。後から考えてみると、私は自分の考える「ふつう」を相手に押し付けてしまっていたのだと気づきました。

「ふつう」という言葉は、日常でよく使います。「ふつうの服」「ふつうの遊び」「ふつうの考え方」。けれども誰にとつての「ふつう」なのかは人によっては違います。私にとつては当たり前前のことも、友達にとつては全然違うかもしれません。なのに、私は自分の「ふつう」を基準にして、他の人を判断していました。

私はその後「ふつう」という言葉を何度か使ってしまった、友達に「ふつうって言われると、なんだか自分を

否定された気持ちになる」と言われました。そのとき、胸がぎゅっと苦しくなりました。私は悪気がなかったけれど、知らないうちに友達を追い詰めてしまっていたのです。

思い返してみると、学校生活の中には「ふつう」という言葉でつくられる見えない壁がたくさんあります。みんなと違う持ち物を持っていると、「変わってる」と言われたり、少し行動が遅いと「ふつうはもっとできるはず」と思われたり。人と違うだけで、まるで間違っているかのように扱われることがあるのです。

けれども、本当に「ふつう」じゃないことなんてあるのでしょうか。世界にはいろいろな国や文化があり、服装や食べ物、考え方もさまざまです。その一つひとつが、その人や地域にとっての「ふつう」なのだと思います。つまり、「ふつう」は一つだけではなく、たくさんあるのです。

私は「ふつう」という言葉を使うときに、どこか安心している自分がいました。みんなと同じであることに安心し、違っている人を「ふつうじゃない」と言ってしまうことで、自分の立場を守ろうとしていたのかもしれない。でもそれは、とても弱い考え方だと思います。本当は、違いがあるからこそ人は面白いし、学べることも

多いのだと気づきました。

友達との出来事以来、私は「ふつう」という言葉をできるだけ使わないように心がけています。その代わりに、「そういう考え方もあるんだね」と言ったり、「それもいいね」と受け止めたりするようにしました。すると不思議なことに、会話が楽しくなり、相手も安心して自分の意見を話してくれるようになった気がします。

私はまだ、「ふつう」について明確な答えを持っていません。けれども、「ふつう」という言葉の裏には、誰かを傷つけたり、しばったりする力があることを知りました。そして、逆に、「違いを認めあう言葉」には、人を安心させ、勇気づける力があることも学びました。

これから私は、人と接するとき、「ふつうかどうか」で判断するのではなく、「その人らしさ」を大切にしていきたいです。一人ひとりの個性や感じ方を尊重することこそが、本当の意味での人権を守ることにつながるのではないかと思っています。

「ふつう」って何だろう。その答えはきっと、一人ひとりの中であって、同じものはありません。だからこそ、違いを認めあい、互いに支えあえる社会をつくっていきたいと、私は強く思います。